

CL-4-Ⅱ-02	疾患と薬物治療ⅡB	第4学年	前期 必修	1単位
担当者	池田 弘子			
一般目標 (GIO)	将来、適切な薬物治療に貢献できるようになるために、腎臓・尿路の疾患、生殖器疾患、内分泌系疾患、アレルギーや免疫疾患、骨や関節の疾患およびそれらの治療に用いられる代表的な医薬品に関する基本的知識を修得する。			
到達目標 (SBOs)	<p>【腎臓・尿路の疾患】</p> <ol style="list-style-type: none"> 腎臓および尿路における代表的な疾患を挙げることができる。 腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 以下の疾患について概説できる。糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石 <p>【生殖器疾患】</p> <ol style="list-style-type: none"> 男性および女性生殖器に関する代表的な疾患を挙げることができる。 前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 以下の疾患について概説できる。前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内膜症 <p>【内分泌系疾患】</p> <ol style="list-style-type: none"> ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患を挙げることができる。 甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 尿崩症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 以下の疾患について概説できる。尿崩症、上皮小体機能異常症、アルドステロン症、アジソン病 <p>【骨・関節の疾患】</p> <ol style="list-style-type: none"> 骨、関節に関する代表的な疾患を挙げることができる。 骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 以下の疾患を概説できる。変形性関節症、骨軟化症 <p>【アレルギー・免疫疾患】</p> <ol style="list-style-type: none"> 代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げることができる。 アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 自己免疫疾患（全身性エリテマトーデスなど）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 			
受講心得・準備学習等	薬物による疾病の治療の合理性と必要性を理解することが目標となるため、疾患に関する基礎知識や薬の薬理作用に関して十分理解しておくこと。			
事後学習・復習等	講義で扱った疾患に関する病態および薬物治療について整理し、必要に応じて治療に用いられる薬の薬理作用等を復習し理解を深めること。			
オフィスアワー	講義のある日の17:00～19:00。他の時間帯も在室時は対応する。			

授業の形式と各回の内容

授業の形式		講義形式で行う。
回	項目	内容
1	腎疾患	腎臓の疾患概論
2	腎疾患	慢性および急性腎不全・ネフローゼ症候群の病態や治療
3	腎疾患	糖尿病腎症・糸球体腎炎の病態と治療
4	尿路疾患	尿路感染症・尿路結石の病態と治療
5	生殖器疾患	生殖器における代表的疾患の概論、前立腺肥大症の病態と治療
6	生殖器疾患	前立腺がん・子宮がん・子宮内膜症・不妊症・異常妊娠・異常分娩の病態と治療
7	内分泌疾患	内分泌の代表的疾患の概論、甲状腺機能異常・上皮小体機能亢進症の病態と治療
8	内分泌疾患	クッシング症候群・アルドステロン症・アジソン病・尿崩症の病態と治療
9	骨・関節の疾患	骨・関節の疾病概論、骨粗鬆症・骨軟化症の病態と治療
10	骨・関節の疾患	慢性関節リウマチ・変形性関節症の病態と治療
11	アレルギー・免疫疾患	アレルギー疾患の概論、アナフィラキシーショックの病態と治療
12	アレルギー・免疫疾患	自己免疫疾患（全身性エリテマトーデスなど）・後天性免疫不全症の病態と治療

成績評価の方法	定期試験（本試験・追再試験）の成績に受講態度を加味して評価する。
成績評価の基準	定期試験（本試験・追再試験）の得点が60%以上を合格とする。受講態度によって10%以内の範囲で得点を付加することがある。
教科書	亀井淳三・齋藤英胤編「Principal Pharmacotherapy」（ネオメディカル） 浦部晶夫・島田和幸・川合眞一編「今日の治療薬 2017」（南江堂）
参考書など	